

○水島かな江\* 井上えり子 \*\* (\*神戸松蔭女子学院短大 \*\*鳥取大)

目的 基礎的家事技術の習得過程におけるジェンダー差を明らかにすることが本研究の目的である。

方法 神戸市内の女子高校生の父母など成人男女を対象とし、1997年7月上旬～9月上旬にインタビュー調査を行った。有効票は340票(男性:151票、女性:189票)であった。調査内容は基礎的な家事19項目である。各項目について、どのように習得したかをたずねた。加えて、①よく作る料理、②日常の食事作り、衣服の購入、住まいを快適にすること、赤ちゃんの育て方について気をつけたことと各々の習得方法を自由記述でたずねた。

結果 ①男性はほとんどの項目で女性より出来る割合が少ないが、男性の日常的な家事の出来る割合は、ほぼ60%を超えている。②女性は日常行われる頻度の低い家事を除けば、出来る家事をほとんど行っている。男性は出来るからといってその家事を行っているわけではない。調理、被服領域では特にその傾向が強いが、保育の項目では男性の行っている割合は高い。③女性の家事の習得場所は主に家庭で、それに学校、病院、保健所が加わっている。男性は全般的に家庭で学んでいる割合が低い。しかし育児では女性が家庭以外からも学んでいるのに対し、男性はほとんど家庭で学んでいる。④女性は主に母親から学んでいたが、男性は母親だけでなく妻や姉妹、その他の人からも学んでおり、家事を学ぶ対象は多岐にわたっている。⑤技術の習得方法の全体的な傾向は男女とも似ているが、女性に比べ男性の方がみようみまねで学ぶ割合が高い。また、男女とも家庭で行われる頻度の低い家事については、テレビや本などのメディアを通して学んでいる。